

令和 2 年 7 月 9 日現在

機関番号：13101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K20849

研究課題名（和文）フォトボイスを用いた男性高齢者の地域コミュニティ形成支援プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of program to promote regional community on elderly men using photovoice

研究代表者

堀田 かおり (HOTTA, Kaori)

新潟大学・医歯学系・助教

研究者番号：90760851

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：男性高齢者の主観的健康感には、身体的要因（老研式活動能力、慢性疾患の既往）、心理的要因（生活満足度、主観的幸福感、経済的満足感）、個人的要因（食品摂取の多様性）、社会的要因（認知的ソーシャル・キャピタルの「信頼」、経済的ゆとり）の4つの要因が関連していた。男性高齢者は、健康に自立した生活を送るために、他者との交流の中から情報を得て食事や運動などの生活習慣の改善や趣味に取り組んでいることから、生活習慣の改善をともに検討できるプログラムを開発することが地域コミュニティの形成を支援するために重要であることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で明らかになった男性高齢者が健康に自立した生活を送るための取り組みは、男性高齢者の強みである。当事者の視点を活かし、地域社会と繋がるための支援を行うことは、男性高齢者自身が主体的に健康状態を維持・増進させ、コミュニティを形成することによって、男性高齢者のQOLの向上に寄与し、健康寿命の延伸にも貢献すると考えられる。また、地域社会で男性高齢者の力を活用した事業の展開を検討する機会になり得るため、男性高齢者の地域での役割の獲得や生きがいの形成にもつながると考えられる。

研究成果の概要（英文）：Four factors related to subjective health of elderly men. These factors were physical factors (functional capability levels and presence of chronic disorders), psychological factors (life satisfaction, subjective well-being and economic satisfaction) individual factors (dietary diversity) and social factors (cognitive social capital (trust) and economic status). Elderly men engaged in improvement of dietary and exercise habits and pleasure through exchange with elderly men. This suggests that it was important to develop programs to consider improvement of lifestyle for promote regional community.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：フォトボイス 男性高齢者 強み

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

高齢者が地域において生活を継続していくためには、地域社会においてサポート・ネットワークを築くことが重要である。男性高齢者は、女性高齢者と比較し、一人で暮らすことがサポート・ネットワークの縮小をもたらし、孤独感を高める可能性が示唆されている（西村, 2004）。男性は、退職後より地域社会への参加が本格的になることが多い。そのため、男性は女性よりも多くの職場仲間関係を組織しており、女性は男性よりも多くの近隣関係を組織していることが報告されている（野辺, 1999）。また、男性の一人暮らし高齢者は、健康状態悪化時の対応や孤独死予防の体制づくり、適切な食生活を可能にする支援がセルフケアを確立する上での課題であることが指摘されている（河野ら, 2009）。これより、早期段階より男性高齢者への支援が重要であり、男性高齢者自身が健康状態を維持・向上させ、地域社会の中でコミュニティを形成し、自ら QOL を高めることのできる支援が必要である。

近年、各自治体では、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるような支援の一つとして、介護予防事業を行っている。しかし、男性高齢者は、介護予防事業への参加が少ないことが報告されている（大久保ら, 2005）。この理由として、男性は女性の集団に入りにくいと感じていることと地域で社会参加をしたいと思っても、気恥ずかしさや交流のきっかけや方法が解らず、参加できないことが示唆されている（船山ら, 2007）。男性の地域活動グループにとっては、「自分たちにできることへの挑戦とその成果の実感」が活動の推進要因（船山ら, 2007）として挙げられており、男性の特性を考慮した支援プログラムの検討が必要である。また、高齢者の社会資源の利用に対する姿勢に関しては、地域によって違いがあり地域特性も考慮に入れた支援方法が必要であることが指摘されている（河野ら, 2009）。男性高齢者が主体的に健康づくりに取り組むためには、きっかけづくりや男性高齢者自身のできることである強みを活かした支援を行い、取り組んだ成果を感じられることが重要である。

当事者の「ストレングス＝強み」に焦点を当て、それを活かした支援を行うモデルとしてストレングスモデルが 1990 年代前半に提唱されている。ストレングスモデルは、支援を行う中で「その人らしい、よりよい暮らしをその人とともにつくっていく」モデルである（萱間, 2016）。このモデルは、支援者が幅広い資源を探り出し、確保し、支えることによって生活の質を変えることやエンパワメントすることを目的としている。エンパワメントは、「健康に影響を及ぼす行為や意思決定を人々がよりよくコントロールできるようになるプロセス」と WHO（世界保健機関）では定義されている。男性高齢者は、このストレングスモデルによって、より効果的に健康づくりに対する意思決定ができるようになると考えられる。ストレングスには個人のストレングスと環境のストレングスがあり、「性質／性格」「才能／技能／自信」「関心／熱望」「環境のストレングス（資源／社会関係／機会）」の 4 つのカテゴリーに分けられている（Rapp, et al, 2011）。個人のストレングスの中でも「関心／熱望」は、「関心を持ち熱中できることを目標にしたとき、その過程と達成のために力が湧くもの」であり、個人にとって最大のストレングスになるものである（萱間, 2016）。「才能／技能」は、見つけにくい側面であるが、それを引き出すのがストレングスモデルによるアプローチであり（萱間, 2016）、持っている「才能／技能」を活かすことによって生きがいや生活における満足感を感じることができると考えられる。

そこで、本研究では、健康に自立した生活をするための男性高齢者の強みを生かし、主体的に取り組むことができる支援プログラムを当事者の視点から開発することが必要であると考えた。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、男性高齢者の健康状態の維持・増進とコミュニティの形成に着眼し、フォトボイスの手法を用いて健康に自立した生活をするための男性高齢者の強みを明らかにすることにより、当事者の視点から支援プログラムを開発することである。

なお、本研究では、ストレングスモデルを参考に男性高齢者の強みを「自分らしい生活するために関心を持っていることまたは取り組んでいること」と定義する。

### 3. 研究の方法

#### (1) 実施内容

- ①健康指標の一つである主観的健康感について、男性高齢者の主観的健康感に関連する要因を日本国内文献の検討より明らかにする。
- ②男性高齢者が健康に自立した生活を送るための強みをフォトボイスの手法を用いて明らかにする。

#### (2) データ収集

- ①国内文献の検索には、文献データベースとして医中誌 Web と CiNii を用いた。検索語は、“地域” AND “男性” AND “高齢者” AND “診断的自己評価 OR 主観的健康感”とした。医中誌 Web では絞り込み条件を「原著論文」とした。論文の発行年は限定しないこととした。文献検索の結果、113 件を抽出した。選定基準は、「主観的健康感の関連要因が記述されていること」「地域在住の自立した男性高齢者が対象であること」「65 歳以上の高齢者であること」「言語が日本語であること」とした。
- ②参加型アクションリサーチとした。地域在住の自立した男性高齢者 7 名を研究対象者とし、フォトボイスの手法を用いて調査を行った。研究対象者に「自分らしい健康的な生活するために取

り組んでいることまたは関心を持っていること」をテーマとして写真を10枚程度撮影した後、選定した3枚の写真をもとに約90分のグループ討議を行った。グループ討議では、「何が写っているのか」「どうしてそのことに関心を持ったり取り組んだりしているのか」「それは自分らしい生活とどのように関係しているのか」について、研究対象者が写真を示しながら説明した後、「自分らしく健康的に生活を送るためには何ができるのか」について討議した。

### (3) 倫理的配慮

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」、「看護研究における倫理指針」を遵守し、所属機関における人を対象とする研究等倫理審査委員会の承認を得た後に行った。研究対象者へは、研究の趣旨、個人情報の保護、プライバシー保護、データの管理等を文書と口頭で説明し、同意を得た。また、本研究は、研究対象者が写真撮影を行うため、プライバシーの保護や個人情報の保護に十分留意する必要があるため、写真撮影を行う前には、研究対象者へ撮影時の注意点やプライバシーの保護に留意して実施できるように説明を行った。

## 4. 研究成果

### (1) 男性高齢者の主観的健康感に関連する要因

文献検索によって抽出した113件から重複文献15件を除外した。一次スクリーニング、二次スクリーニングを行い、選定基準に適合するのは3文献となった(図1)。文献は、全て2014年以降に公表されていた。調査対象地域は、中都市2件、離島の農村地域1件であった。調査方法は、自記式質問紙調査2件、訪問面接調査1件であった。主観的健康感の関連要因は、慢性疾患の既往、老研式活動能力、生活満足度、主観的幸福感、経済的満足感、食品摂取の多様性、認知的ソーシャル・キャピタルの「信頼」、経済的ゆとりの8要因であった(表1)。経済的満足感は、直接的な関連と比べて生活満足度・主観的幸福感と食品摂取の多様性を介した間接的関連が大きかった。また、男性高齢者は女性高齢者と比較し、生活満足度・主観的幸福感と食品摂取の多様性の関連が大きかった。

地域在住の自立した男性高齢者の主観的健康感に関連する8要因は、さらに身体的要因(老研式活動能力、慢性疾患の既往)、心理的要因(生活満足度、主観的幸福感、経済的満足感)、個人的要因(食品摂取の多様性)、社会的要因(認知的ソーシャル・キャピタルの「信頼」、経済的ゆとり)の4つに分類された。男性高齢者の主観的健康感を向上させるためには、男性高齢者自身の身体的・心理的・個人的側面と地域のつながりである社会的側面の両側面から支援する必要があると考えられる。女性と比較し、男性高齢者は生活満足度・主観的幸福感と食品摂取の多様性の関連が大きいことから、多様な食品摂取への支援は生活満足度・主観的幸福感の向上につながる。地域の中で男性高齢者同士と一緒に健康づくり活動に取り組み、食事への支援に重点を置いた健康づくりが重要であると考えられた。

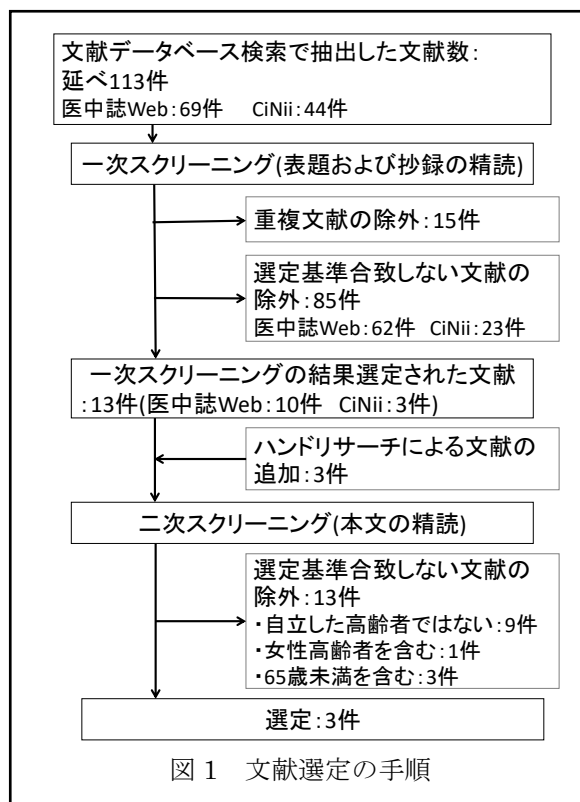


図1 文献選定の手順

表1 選定文献の一覧

著者(発行年)	調査対象地域	調査方法	関連要因
太田(2014)	関東圏中都市	自記式質問紙調査 郵送	<ul style="list-style-type: none"> <li>老研式活動能力</li> <li>慢性疾患の既往</li> <li>経済的ゆとり</li> <li>認知的ソーシャル・キャピタルの「信頼」</li> </ul>
山内、斉藤、加藤他(2015)	四国圏中都市	自記式質問紙調査 配布・郵送	<ul style="list-style-type: none"> <li>老研式活動能力</li> <li>生活満足度</li> </ul>
児玉、栗森、星他(2016)	離島農村地域	訪問面接調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活満足感・主観的幸福感</li> <li>経済的満足感</li> <li>食品摂取の多様性</li> </ul>

(2) 男性高齢者が健康に自立した生活を送るための強み

男性高齢者は、健康に自立した生活を送るために、食事や運動などの生活習慣の改善に取り組んだり、自分自身の趣味に取り組んだりしていた。生活習慣の改善は、就労時からのつながりや退職後に地域社会で新たにできたつながりをもとに情報を得て実践していた。男性高齢者の強みは、個人で取り組める内容が多いが、その内容は他者との交流の中から情報を得ていることから、食事や運動等の生活習慣の改善をともに検討できるプログラムを開発することが地域コミュニティの形成を支援すると考えられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 堀田かおり
2. 発表標題 地域在住の自立した男性高齢者の主観的健康感の関連要因に関する日本国内文献の検討
3. 学会等名 日本地域看護学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----